

第四十五回

新春文芸作品展



とき

令和六年一月二十五日
～一月二十八日

ところ

関市文化館

主催

関市・関市教育委員会

もくじ

現代詩	狂俳	俚謡	川柳	俳句	短歌
⋮	⋮	⋮	⋮	⋮	⋮
15	13	10	7	4	1

短歌

市長賞

特養の入居決定通知書が
いきなり届く母の忌まぢか

奈良市 和田 康

市議会議長賞

亡き母が訪ね来るよな朝だから
玄関掃除しているのです

羽島市 横山 美枝子

選者

大塚 雅之
伊藤 かえこ

教育長賞

風の盆中高生の踊り手が
風の神様鎮めて踊る

垂井町 衣斐 知恵子

〈選評〉

市長賞

特養の入居決定通知書が
いきなり届く母の忌まぢか

評・現代のどの家庭にもおこりえる素材である。入居までに
順番を待たなければならず、その間があまりにも長いので、
悲しみのうちに忘れていたのかと。下の句がこの一首を鮮
烈に立ち上げている。悲しみ、苦しみ等心情的な言葉を入
れず、「忌まぢか」で終わったことで、この歌を深いもの
にした。

市議会議長賞

亡き母が訪ね来るよな朝だから
玄関掃除しているのです

評・さわやかな気持ちのいい朝だったのだろう。きっと母親
も好きな朝だったのでは。淡々と詠まれているが、作者の
一首に託す思いが描写を通して、読者に柔軟に伝わってく
る。結句の「しているのです」に一番の思いを感じる。心
の中の思いが言葉になり、さらにつぶやく声まで聞こえて
きそうである。

教育長賞

風の盆中高生の踊り手が
風の神様鎮めて踊る

評・八尾町の夜を徹して踊り歩く男女の姿が一読して、よく分
かり景が見える歌である。深い笠をかぶった踊り手の中に、
作者が見つけたのは、中高生の踊り手である。この若者達
を入れたことより、一首におわら節の哀愁とは違う、新し
い風を感じた。具体的な場面や人物、流れまで見える一首。

秀逸

方言の行き交ふ梨の直売所
あの湖のあの山がふるさと

群馬県前橋市

外丸幸子

貧困の昭和を生きて節樽の
手は菜を刻みマフラーを編む

愛知県東海市

斉藤浩美

ふと彼がうしろを向いたそのときに
思いつきりに蹴りたい背中

福岡県北九州市

國貞雅嗣

コロナ負ひ孤独の五日身に沁みる
罪人のごと配繕届く

関市

市山望川

子供らの声と鞆をチャージして
絵本のように走り去るバス

三重県名張市

山岡すべり

入選

朴葉の枝肩にかつぎし弟の
遺影はほほえみ先に逝くよと

各務原市

川瀬征子

愛してる言葉に色があつたらな
世界は同じ色をしている

神戸市立神港橋高校

籠田乙華

忘れ物取りに戻った教室に
いつもと違う無音の空間

神戸市立神港橋高校

豊田莉央

車窓から夜景見ている帰り道
自分も誰かの夜景の一部で

神戸市立神港橋高校

永井充平

五時半に響く着信君の声
好きだよなんて言えるわけない

加茂農林高校

笠松優奈

嫁ぐ娘のか細き肩にさくら降る
二十九度目の春は閑かに

関市

吉田佳広

生粹のかかあ天下の亡き母に
逢えた気のする味噌と糠床

群馬県高崎市

遠藤幸子

梅干しをじょうずに漬ける母の手は
サインライトを振ったりもする

各務原市

田原宣仁

君と会う放課後4時間糧にして
生きる私は青すぎないか

東京都中野区

長谷川桃子

アレルギー表示確認するように
血液型を聞いてくるなよ

東京都板橋区

山月 恍

〈総評〉

小中高生の部が無くなって、高校生の作品が一般に加わり、応募数五三一首。昨年の両者合計五〇二首を超えた。結果、高校生の作品と思われる短歌としての熟度は物足りなくとも感性の瑞々しい歌と、大人のまずは完成した歌のせめぎ合いで選歌に苦労した。大人の作品は歌としての形は整っていても既読感があつたり、日常的で感動が少ないものも多い。初心者や高校生と思われる歌に「・・・で」と、状況を述べるのみに終わっているものが多く見られたのも特徴だ。

無駄な言葉がある一方、字数に拘るあまり必要な助詞が無かったり、説明や決意、標語的で詩の無い歌もあいかわず多い。

今回目立ったのは母（特に亡母）を筆頭に家族を詠んだ歌で、やはり身近な人への愛情と感情の高揚が読み手の心を打つ。

文法や仮名づかいで特に取り上げるものは無かったが、漢字の間違いや送りがなの過不足、若い人に多い「ら」抜きという言葉が見られる。提出前にもう一度確認されたい。

選者詠

娘には娘の生き方ありと北の地に

行くを許しし日の遠し遠し 大塚雅之

戦争の解釈違う少年と

パンの好みの一致で終わる 伊藤かえこ

俳句

市長賞

「笑門」の「笑」より焦げてゆくどんど

津市 西川 玲子

市議会議長賞

カピバラもパンダも見たと初電話

富加町 渡辺 由美子

選者

清水青風

教育長賞

若水や生きとし生けるものしづか

群馬県高崎市 遠藤 幸子

秀逸

入選

初句会傘寿米寿は若き組

長崎市 西 史紀

病む友に言葉選びて年賀状

関市 井戸 肇

二日はや鋼打つ音整へり

関市 土屋 敏枝

全身を乗り出し競ふ歌留多とり

中津川市 西尾 富久枝

恋知らぬ子らが元気に取るかるた

中津川市 西尾 嘉浩

年迎ふ沼のほとりの漁師小屋

関市 粥川 基子

黒髪の乙女真中に初写真

関市 鷺見 吉直

教へ子の色鉛筆の年賀状

大垣市 加藤 寿志

函嶺へ駅伝走者競る二日

名古屋市 坂本 雅則

初風呂や消えゆく吾子の蒙古斑

大垣市 安藤 昇司

打ち初めの大槌小槌淑気満つ

京都市 藤本 花をり

おもちつきたのしかつたと孫の文

高知県須崎市 中平 妙子

先生とピアノ囲みて初写真

静岡県焼津市

瀬戸尾 陽子

雑煮椀はふうはふうと観測員

静岡県焼津市

瀬戸尾 陽子

ユーカーリのかをりの葉新日記

奈良県葛城市

無 二

〈選評〉

市長賞 「笑門」の「笑」より焦げてゆくどんど

評・小正月に行うどんど焼き。正月のお飾りをお宮などで燃し、正月の終りを示す行事である。「笑門来福」の書初めをどんどに焼べたところ、頭の文字から燃え始めたと言句句意。こうした些細なことでも観察の眼を磨ぎ澄ませれば詩は生まれるという良き一例である。佳句を生むには先ず対象をよく見ること。他人の気づかぬようなところまで見ることが大切であることを示している。

市議会議長賞 カピバラもパンダも見たと初電話

評・お孫さんと祖父又は祖母との会話であろう。お正月に掛けて来た電話で、先ず告げたことは、珍しい動物を

見たと言うこと。幼い子の弾むような声が浮かんで来る。幼いころの一つ一つの体験が、人を作り上げて行くことを感じさせる作品である。

教育長賞 若水や生きとし生けるものしづか

評・若水とは元日に初めて汲む水のこと。水を汲む際に作者が感じたのは生命を保つに欠かすことの出来ない水。水によって生命を保つことができるのであるが、今、命あるものは鳴かず飛ばず動かずして身を安めているに違い無い。その安らぎが明日へと生きる力を育んでいるのだと。「しづか」の一語に深い思いを感じることができるとの一句である。

選者詠

年新たな意思と意気地を友として

清水青風

川柳

市長賞

春を待つ新芽が凍土耐え抜ける

甲府市 風間 なごみ

評・春を待つ新芽。私は、新芽を今年の春、学校や職場など新しい人生に向かつて頑張る人達の事の様に読ませていただきました。

市議会議長賞

逆境でヒントをくれた父の辞書

兵庫県三田市 九村 義徳

評・あゝそうか、お父さんの言う事が私を助けてくれるのだと、若い頃逆らっていたのに、今寿を迎えた今、父の言っていた事を頷ける様に成りました。

選者

平林 土佐子

教育長賞

初雪や傘を逆さに集める子

埼玉県草加市 伊藤 一翁

評・子供達の姿が目には浮かびます。雪遊びはとても楽しかった事を思い出します。四季折々が楽しめると良いですね。

第四席 褒められて錆びた五感が目を覚ます

埼玉県久喜市 岡田孝道

秀逸

第五席 婆ちゃんが穴繕ろつたヴェンテージ

千葉市 夕陽のガンマン

平凡な日々は夫婦の宝物

福島県二本松市

やんちゃん

第六席 白々と嘘つく悪さ腹黒さ

東京都町田市 尊の君

病床の妹の空は鉛色

福岡県北九州市

國貞雅嗣

第七席 ポストへと手差し出す子の踵浮く

兵庫県姫路市 木登あお

人情の絆深める関文芸

揖斐川町

清水亮鳴

第八席 長湯して皺だらけかな美肌の湯

甲府市 ルーキー

年賀状あなたの名を書く手が弾む

東京都練馬区

花井なつ

第九席 受診終えそれから長い婦人会

東京都八王子市 須藤茂夫

虫の声ピタツと止んで妻の声

兵庫県加東市

播磨翁

第十席 友達と過ごす時間が宝物

神戸市立神港橋高校 尾中優芽

文化祭いつもは見えぬ団結力

神戸市立神港橋高校

白石晴楓

笑いあう生徒の音が響く舎に

神戸市立神港橋高校

小柳莉杏

ウォーキング日々のコースに旅がある

佐賀県唐津市 古賀 由美子

迷ったら父の教えは前に出る

各務原市 後藤 郵子

いがみ合う丸い地球は角ばかり

山梨県中巨摩郡昭和町 佐高 源

〈総評〉

今回も素晴らしい句を沢山いただき、有難うございました。

どの句を読んでも、そうですなそうですなと楽しませていただきました。前向きな明るい楽しい句が多く一日も早くコロナが消えてくれることを願っています。沢山の句から選ばせていただいた二十句でした。皆様の今後のご活躍を楽しみにしています。この一年も良い年に成ります事を心より願っております。

選者詠

人生を紡いでくれた針と糸

平林 土佐子

俚謡

市長賞

家族揃って新年祝う鯛の塩焼き初春の膳

岐阜市 舟坂 均

評・正月に相応しいほのぼのとした光景ですね。新年のスタートに当りご家族お揃いで、膳を囲み屠蘇気分で邪気を払って下さい。鯛の塩焼きが良かったですね。

市議会議長賞

除夜の鐘の音新年告げる先ずはお参り善光寺

各務原市 後藤 郵子

評・新しい年が来たんだなあーと除夜の鐘を聞きながら、ふるさとの名刹、善光寺へのお参り、足も軽く進むことでしょう。目に見えぬ神仏のご加護を信じたいですね。

選者

河村住夫

教育長賞

朝日かがやき辰年迎え老も新たに待つ門出

養老町 植田 芙美子

評・〆年は取っても気は若い“といえます。まして人生百年時代ですね。初日の出に向かつて、ライオンズクラブの雄叫びである「ウオー」と叫びたいですね。地域の長老として頑張ってください。老は辰に食べてもらいましょう。

秀作

年の始めに心も新たな辰の初春踏む一步

神戸町 村瀬昇一

間口七間吉辰選び響く掛矢の春普請

揖斐川町 清水亮鳴

富士の気高き心が凜と今年新し初句会

岐阜町 馬淵清女

巡る十二支東南方位辰で栄える関刃物

岐阜市 長瀬武司

梅の蕾も希望の夢も共に膨む辰の初春

揖斐川町 御田村光女

天に気を吐く辰年迎え卒寿矍鑠初詣で

山県市 美山峻岳

明けた辰年縁起を担ぎ竜のおとしご大人気

神戸町 早津郁男

祝う新春優雅に晴れて詣出人波国の春

大野町 高橋芳月

年は取っても八十路の妻はうすく紅引き初詣

岐阜市 舟坂均

壁に新し曆を掛けて年始祝いの屠蘇交わす

高山市 斐桜庵卯月

佳作

皇居広場は新年明けて陛下お出まし旗の波

各務原市 後藤郵子

新機一転今年はやる気辰の申し子昇り龍

神戸町 村瀬昇一

今年や豊年新嘗祭に氏子肝煎る神饌米

揖斐川町 清水亮鳴

雪の新年玄関前に三河万歳賑やかに

御嵩町 兼氏翠月

辰は架空の生き物だけど干支の中では昇り運

神戸町 加納紅苑

伊勢の新宮初日に映えて森にあふれる檜の香

可児市 丸山重司

関で包丁新調すれば孫の代までよく切れる

福岡県北九州市 熊猫太夫

新た祝いて七福神が床を飾りてでる船出

本巢市 福井久子

雪の社で十年ぶりに友と再会初もうで

中津川市 西尾房子

辰と名のつくお店に入りゃサービスマン満点咲く笑顔

本巢市 中野美喜枝

〈総 評〉

選者吟

今回も格式と伝統ある関市新春文芸作品展の選者を仰せつかり恐縮致しております。浅学非才の身ですが、私なりに心を込めて選考させていただきました。

選考の基準は、いつも申しておりますように、第一に字数ですね。三、四、四、三、三、四、五で詠まれていか、次に季節感やふるさとの情景などを加味しました。今年は昨年に比べ二十六点少ない一〇七点でしたが、いずれも甲乙つけがたく選考には頭を悩ませました。作品は内容のある秀作が多くあり、作品展の質も高く、他地区に比べ充実しています。

昔から、「文は人なり」と申します。作品も短い文章です。今回は新春文芸ということで、題にそって詠まれていることは無論ですが、ある程度の笑いをさそう作品、ユーモアのある作品なども考慮いたしました。

ベテランの作者には釈迦に説法ですが、これから俚謡を始めてみようという方に、字数の構成を「三四四三三三四五」と覚えていただいで、基本を守り名作をどんどん出してくださるようお願い致しますと共に、新しい方のお誘いにご努力くださいますよう、お願いしまして選評とさせていただきます。

関は日本のどん真中で辰が俚謡の花咲かす

河村住夫

狂 俳

市長賞

初 硯 吉書揮毫の筆をとる

御嵩町 兼氏 翠月

評・お屠蘇機嫌で染める墨痕

令和六年の新春を迎え清々しいお気持ちで辰年の試筆を染められた事でしょう。今年も良き一年で有りませう御祈念申し上げます。

市議会議長賞

徳 望 清廉潔白仁厚い

岐阜市 亀山 秀月

評・心長者で肅す人生

我心を捨てて、公に生く篤実温厚な人柄。多くの方々から受ける信望を一身にない、肅々と人生を歩まれておられます。

選者

十二世八仙斎

加藤 晴月

教育長賞

睦まじい 相思の愛が華燭祝ぐ

関市 後藤 昌仙

評・高砂殿から晴れて出帆

人目を忍んで逢う瀬を重ねた日々。そして今、二人して交す夫婦の盃。満身に喜びが溢れています。

第一席 た つ 睨む阿吽が民守る

岐阜市 小川 範子

第二席 た つ 今朝の茶柱縁起良い

三重県多気郡明和町 鳥井 たづ子

第三席 た つ 軒で冬月句に栞る

神戸町 村瀬 昇一

第四席 睦まじい 箸を揃えて亭主待つ

関市 市山 望川

第五席 睦まじい お二人でお花見なさる

各務原市 永縄 一紅

第六席 睦まじい 親子三代屠蘇祝う

本巢市 福井 久子

第七席 た つ 二人の新居出来上がる

可児市 丸山 重司

第八席 睦まじい 金婚過ぎてまた熱い

岐阜市 谷藤 尚花

第九席 た つ お釈迦様甘茶をかぶる

美濃市 瀬瀬 久峰

第十席 睦まじい 寄り添う二人歩幅合う

岐阜市 二村 久女

〈総評〉

今回は、投吟者数六十七名、二六八句の御投吟を頂き有り難う御座居ました。来年度は、岐阜県に於いて「第三十九回国民文化祭」が開催の予定に成っております。皆様方奮って御参加頂きます様お願い申し上げます。

扱て、今回御投吟頂きました中には、未だ新しい方の句かなと思う句が散見されましたが、此処で少し、岐阜調狂俳の基本を書かせて頂きたいと思えます。

一、狂俳は「季語句」と「雑句」とに分かれる。

一、季語の句はなるべく高尚に詠み、課題に対して、余情をなるべく説明的に成らざる様にも結びにて必ず課題の意の有る様にする。

一、雑の句は軽妙洒脱に、ユーモアの有る様作句すると良い。

尚一句は、七五調又は五七調の十二文字で、最後を動詞か形容詞で括るのを基本とします。(名詞止めは不可)今後共多数の皆様方の御投吟をお待ち申し上げております。

現代詩

市長賞

夕景の針

東京都杉並区

平久保 好一

選者

浅野牧子

期限切れの毎日に

夕景の針を通す

秋風が肌に心地よく

街のフィルターから

取り残された河川敷で

サックスをいつものように吹く

音の隙間を嘲笑うかのように

夕景の針は

啜えるリードの湿りを照らした

近代化が進む街並みは

試行錯誤が続き見方を変えれば

再構築があり、解体があった

河川敷に巣食う生き物は

時代の変化に媚びずに

日常を謳歌しているようでもあり

新世代の洗礼を受け

困惑を感じているようにも見えた

河川敷の陰影と奥行きは

年月と共に縮小を余儀なくされ

気づかないところで

昔から生息しているものたちの

生きづらさがサックスの音となり

消化されていった

街も河川敷も抱えている問題に

幾分かの誤差はあれ

大差はないのかもしれない

いつもにまして寂しがり屋の

秋風が肌にまとわりつく

眼前に広がる夕景を

網膜にスキヤンしながら

ゆっくりと重い腰をあげる

手に持つサックスに

夕景の針が静かに差し込んだ

市議会議長賞

宿 　　る

池田町

音 城

涉

灰色の川音を聞きつつ

寂しい家の前を通り過ぎた

私の中で

何かが消滅し始めていた

音もなく　光もなく

匂いもない澱みの深みで

大切に守り通してきた

たったひとつの祈りの箱舟が

耳障りな軋みをたて

私の心を　真つ二つに

引き裂こうとしていた

夢など最初から存在しなかった

情熱も憧れも全ては

一過性の病で

失望の先には

現実が大地に身を投げるように

横たわっていた

白い太陽が天空に

力なく佇む

灰色の川音が次第に消えていく

私が私であつたのは

遠い昔のこと

総ての記憶が忘れ去られた

見知らぬ肉体に

今 私は怯えるように

間借りしている

教育長賞

小びん

七宗町 福井 みつよ

児は生まれる時

小びんを抱いてやって来る

愛情を注いでもらうため

児が愛らしいのは

小びんにより多くの愛を集めるため

日々忙しく

児を看られなくても

ひと時でいい

想う愛も びんの中へ

その愛は他人のものでもいい

質は問わないが

ないよりはいい

閾値がある

びんが一杯になり

栓ができれば

一人旅に出られる

現代では一杯になつていない者らの
なんと多いことか

年月のみが大人にさせても

小びんの中身は増えていない

本来入れてはならぬ

愛まで びんに入れようとする

はきちがえた愛は

旅の途中で飲むと腹を壊す

補充も入れ替えも自力でできなくは
ないのだが

佳作

あなたが消えて

埼玉県戸田市

本間 孝男

あなたが消えた瞬間

あなたの優しさが動く

あなたが消えた瞬間

あなたのスマイルが浮かぶ

あなたが消えた瞬間

あなたの涙が私の涙に変わる

あなたが消えた瞬間

あなたの全てが私の心に染みる

ああ

人は何故、大切なものを失ってから

大切な存在だったと気づくのだろうか。

ああ

人は何故、自分の涙を拭きぬぐったら

当たり前な事など無いと気づくのだろうか。

〈選 評〉

〈市長賞〉 「夕景の針」

評・〈夕景の針〉は前向きな生の象徴であると読みました。開発される街と追いやられる自然への複雑な思いが、サクスの音色によって融和されていく秋風の心地よい夕景を詩う。

〈市議会議長賞〉 「宿る」

評・生きる意欲を奪い取るような大きな失望は苦しみや絶望どころではなく、凍りつくような終わりの三行が結末として生きていると思いました。

〈教育長賞〉 「小びん」

評・現時世の問題点を取り上げて、愛の必要性を訴えておられることがいいと思います。もう少し整理される方がいいと思います。

〈佳作〉 「あなたが消えて」

評・どんな別れでも、もう会えなくなった人への思いはやるせないものが残ります。素直な書き方ですが、心に残りました。

〈総 評〉

たくさんのご応募ありがとうございました。

人間の暮らしは時代によって変化をします。詩も時代によって書かれ方が変化してきました。しかし、時代を映しながらも、詩の根底にあるものは変わらないと思います。

人間に関わるすべての学問や芸術や科学などは、人間の幸せを追求するものではないかと思えます。詩もそうであって、心の叫びとして、願いや祈りを表現するものではないかと思えます。人間が感じる喜怒哀楽、そこからほとばしり出てくる言葉で表現されたものであると思います。

心が感じたことをどれだけ深く掬い取ることができるか、深い思いは究極において生きること、命に迫ることだと思えます。そこまでの思いが表現されているかどうか、詩にとって重要なことになると思えます。その観点から選ばせていただきました。

第45回 関市新春文芸作品展 選者紹介

短 歌 大塚 雅之 おおつか まさゆき
 伊藤 かえこ いたう かえこ

俳 句 清水 青風 しみず せいふう

川 柳 平林 土佐子 ひらばやし とさこ

俚 謡 河村 住夫 かわむら すみお

狂 俳 十二世八仙斎
 加藤 晴月 かとう せいげつ

現代詩 浅野 牧子 あさの まきこ

第45回 関市新春文芸作品展応募数

部 門	応 募 数
短 歌	531点 (502)
俳 句	483点 (3,470)
川 柳	321点 (592)
俚 謡	107点 (133)
狂 俳	268点 (284)
現 代 詩	71点 (58)
合 計	1,781点 (5,039)

() 内は、昨年の応募点数

この作品集の作成にあたっては、あ
きらかな誤字・脱字以外は原作のまま
掲載しました。

第45回 新春文芸作品展

発行 令和6年1月

編集 関市協働推進部文化課
関市桜本町2丁目30番地1
TEL:(0575)24-6455

